

《第 21 号》「お茶の話」

天笠啓祐(ジャーナリスト)

今ペットボトル入りのお茶が増え、茶葉を用いない人が増えています。自動販売機などで手軽に入手できるこのお茶ですが、多くが中国産の茶葉を用い、中身の原価はわずか 5～10 円程度のものが大半です。農薬がたっぷりかかった茶葉が用いられている可能性が高い上に、茶葉は使用前には洗いません。しかも緑茶抽出物や香料、酸化防止剤などが加えられたものもあり、それらはお茶もどきといってよいと思います。

このボトル入りのお茶ですが、最初はあまり売れなかったようですが、香料を入れたものが登場して爆発的に売れるようになりました。いまの人々の味覚はおかしくなっているようです。多くの人が飲むようになると、今度は添加物を控えた健康を売りものにしたのも登場しました。

私の家では、農薬を使わない茶葉を用い、飲み終わったあと乾燥させて、消臭剤代わりに部屋のあちこちに置いています。役割を終えた茶葉は、他のなまものと一緒にコンポストに入れて循環させています。ペットボトル入りではこの茶葉のリサイクルができません。確かにボトル入りは便利かもしれませんが、私の口癖に「便利なものには毒がある」と言葉がありますが、その典型的なものといえるかもしれません。

以上